

キヤノン株式会社

2022年第1四半期 決算説明会【主なQ&A要約】

- Q1.** 足元のコスト上昇に対し、一部は価格転嫁できているとのことだが、先々の環境を考えた時に、今後さらに価格を上げていける余地はあるのか。
- A1.** 今後どれくらいのコストアップを見込むかは難しいが、さらなる上昇もあり得ると考えている。製品価格への転嫁は、業界状況や製品競争力にもよるため一概には言えないが、当社は部品・物流のコストアップについては工場のコストダウンでなるべく吸収し、極力値上げをせずにお客様に商品を届けたいと考えている。
- Q2.** 為替影響を除く前回計画からの売上変化は、需要要因か、供給の要因か、プロダクトミックスの変化か、ビジネスユニットごとに教えてもらいたい。
- A2.** どのビジネスユニットも計画に大きな変更はなく、その変化の要因も主に製品供給の増減によるものであり、各製品に対する強い需要の見通しに変わりはない。
- Q3.** プリンティングの台数計画は、2019年程度の水準まで戻すとの前回計画から変化はないが、インフレや地政学リスクによる景気減速懸念もある中で、計画の達成確度をどのように考えているか。
- A3.** 今年はバックオーダーを多く抱えた状態でスタートしており、競争関係や需要の問題ではなく、いかに製品を供給できるかがポイントであるとみている。そのため、販売台数見通しについては、それぞれの部門が協議のうえで判断した生産可能な水準に基づいており、十分達成できると考えている。
- Q4.** イメージングの1Qは、工場閉鎖のための一時的な費用の計上により減益とのことだが、閉鎖の経緯と金額影響を教えて欲しい。
- A4.** 主にコンパクトカメラを生産していた中国の生産拠点について、市場の縮小を背景に、これ以上操業を続けることは難しいと判断し、閉鎖を決めた。詳細な金額は開示できないが、特殊要因を除けば増益であったと考えている。

キヤノン株式会社

2022年第1四半期 決算説明会【主なQ&A要約】

Q5. 円安の流れを踏まえ、グローバルでの生産をどのようにしていく方針が聞かせて欲しい。

A5. 為替に関係なく、内製化やロボット化により、他の地域に負けないコストにまで下げること
で、主要機種については日本国内で作っていきたい。また、コストの面とは別の観点で、工場の閉鎖や生産の停滞を起こさないためには国内での生産が重要であると、今回のコロナを機に改めて実感している。

Q6. 米国販売会社のオフィス売却の詳細を教えてください。

A6. 支店機能の本社への集約などにより要員の効率化が進んでおり、資産効率化の観点から、不要となったオフィスの売却を行った。売却金額については開示を差し控える。

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。